

枝幸町地域公共交通網形成計画（概要版）

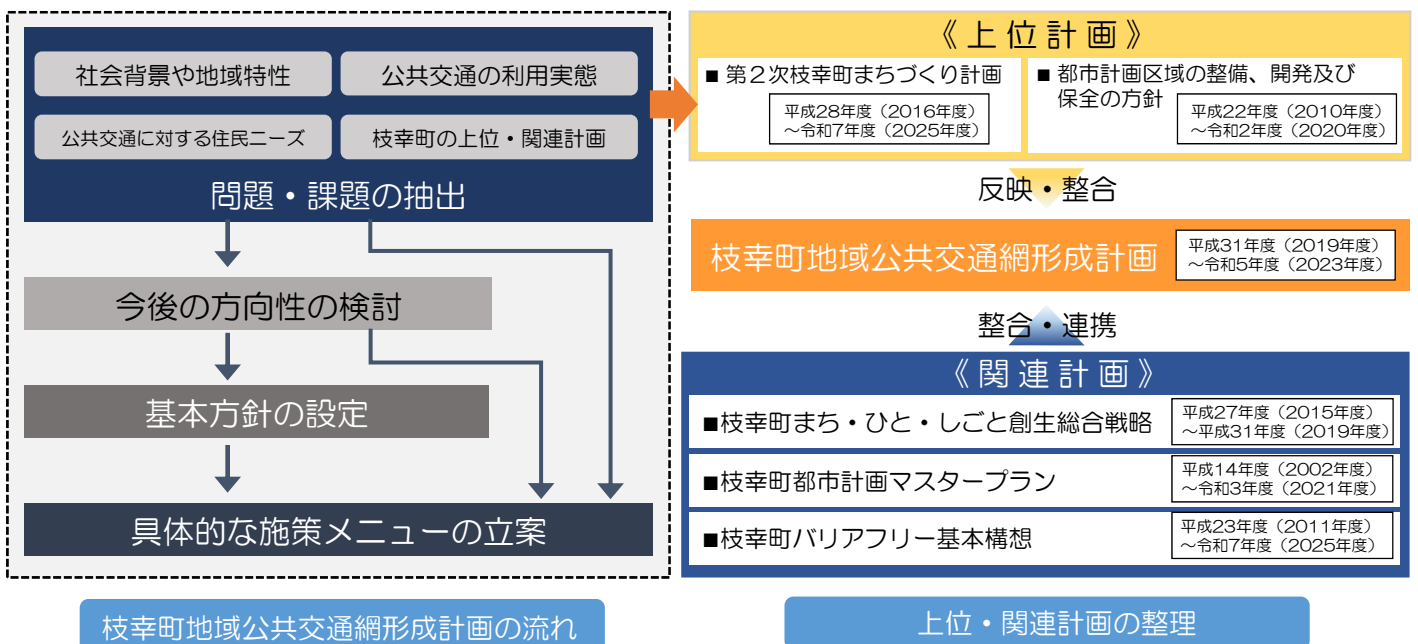
◆ この計画が目指すもの

日本全体が人口減少局面に入っているなか、枝幸町も少子高齢化・人口減少が進行しています。また、環境問題や防災意識の高まり、地方創生の進展などで社会情勢も大きく変化すると同時に地域公共交通の重要性が高まってきました。一方で、民間事業者により運営されている路線バスは、利用者の減少等で国や道の補助基準を満たさなくなり、今後は、町による運行経費補助のみで維持しなければならず、財政負担が大幅に増加する状況です。

これらのことから、枝幸町では多様化するニーズに応えるため、公共交通ネットワークの再編を図り、公共交通空白地域の解消や町民の足の確保など、持続可能な公共交通体系の構築と住みよいまちづくりを目指すために「枝幸町地域公共交通網形成計画」を策定します。



◆ 計画策定の流れと上位計画や関連計画との位置づけ



◆ 計画の策定まで

計画調査にあたっては、地域公共交通に係る調査の実施や交通事業者、町民、行政などの関係者による「枝幸町地域公共交通活性化協議会」での検討を実施しました。

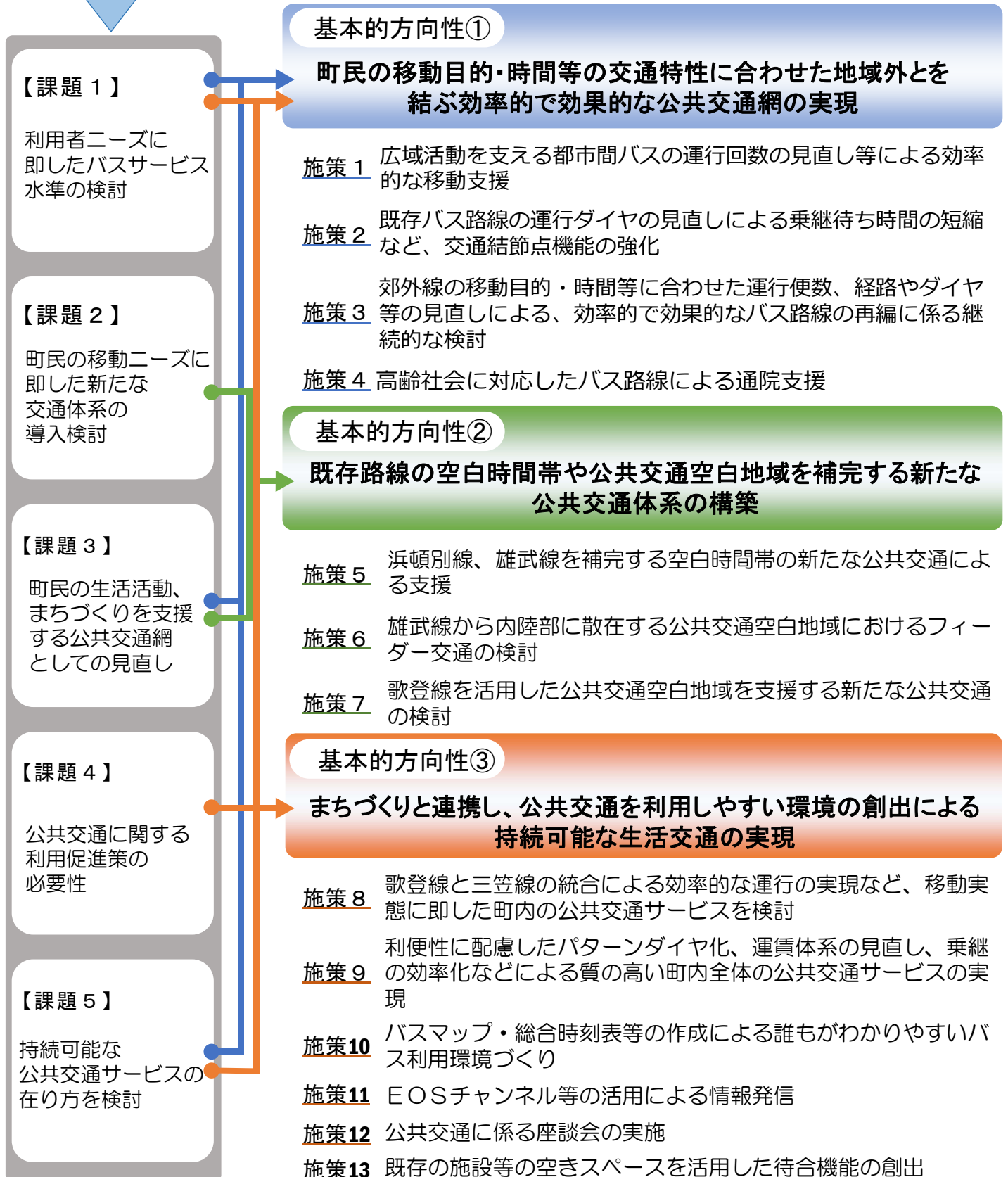
主な実施内容
住民アンケート調査 (2,000世帯へ配付：回収率37.8%)
バス利用実態調査アンケート (町内バス全便対象：全2回)
地域公共交通活性化協議会 (全3回)



◆ 枝幸町地域公共交通網形成計画の基本方針と基本的方向性

枝幸町の公共交通の問題点・課題を踏まえた「枝幸町地域公共交通網形成計画」の基本方針と基本的方向性、施策メニューの体系は以下のとおりです

《基本方針》 地域の交通資源を最大限活用し、効率的・効果的に住民の生活の足を支援するまちづくりと一体となった持続可能な公共交通網の実現

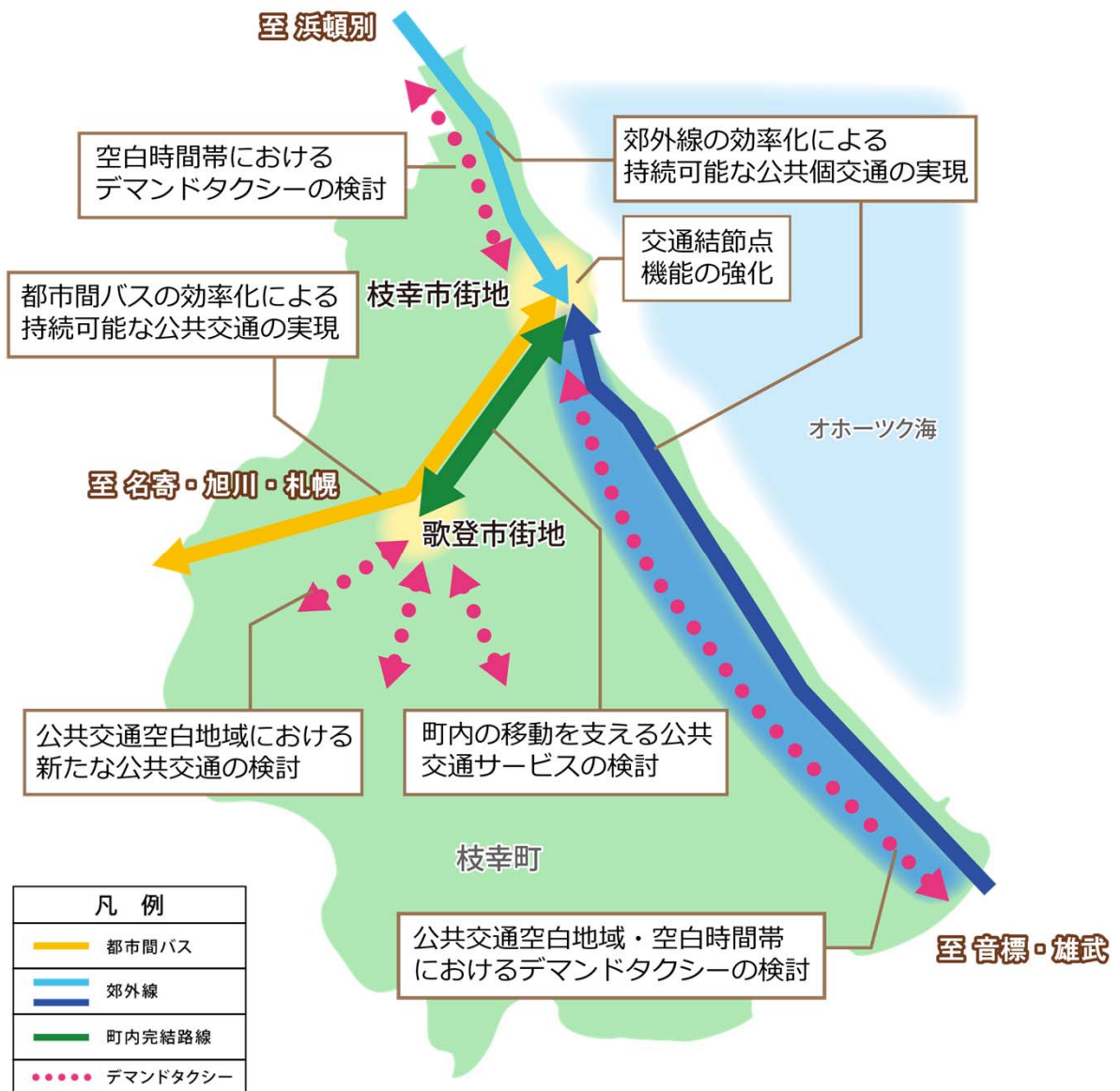


◆ 枝幸町が目指す地域公共交通の将来像

将来に向けた枝幸町の公共交通像については、既存の都市間バスや郊外線（浜頓別線・雄武線）の効率化を図るとともに、歌登線・三笠線のバス路線の再構築による町内移動を支える公共交通サービスを検討します。また、枝幸市街地の交通結節点機能強化や交通空白地域・空白時間帯における新たな公共交通の導入について検討します。

【地域公共交通の将来像】

選択と集中によるバス路線の効率化と持続可能な公共交通体系の再構築



枝幸町が目指す公共交通像

◆ 計画の目標

本計画の基本方針に基づき、以下の指標及び目標値を設定します。

該当する 基本的方向性			指 標	現 行 値		目 標 値
方向性 1	方向性 2	方向性 3				
●	●	●	指標① 高齢者の外出率	76.9% ※1	→ 向上	80.0% ※2
●	●	●	指標② バス利用者数の向上	231名 ※3	→ 維持	231名
●	●		指標③ 公共交通サービスに対する満足度	12.2% ※4	→ 向上	20.0% ※5
		●	指標④ 新たな利用促進の実施	—	→ 向上	15回/5年

- ※1 平成30年度住民アンケート調査結果(ほぼ毎日～週1、2回の割合)
- ※2 平成30年度住民アンケート調査結果の「外出頻度は変わるか」から推計
- ※3 平成30年度バス利用実態調査を基に算出
- ※4 平成30年度住民アンケート調査結果の「現状のバスに対する総合評価」から算出
- ※5 平成30年度住民アンケート調査結果の「バスの利用頻度は変化するか」から推計

◆ 進行管理と推進体制

本計画で設定した基本方針や施策を進めていく上で、「枝幸町地域公共交通活性化協議会」において、施策の進捗状況、効果や妥当性の確認を行いつつ、PDCAマネジメントサイクルを確実に実施し、施策に係る全ての関係者（交通事業者、地域住民、行政、各種団体等）が主体的に考えて取り組む必要があります。



計画の進行管理のイメージ

◆ SDGsの取り組み

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、本計画においても取り組む目標として掲げています。

目標 3	3 すべての人に健康と福祉を	目標 11	11 住み続けられるまちづくりを	目標 12	12 つくる責任 つかう責任
3.6	2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。	11.a	各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部および農村部間の良好なつながりを支援する。	12.7	国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。